

株主の皆様へ

第62期 報告書

令和7年4月1日～令和8年3月31日



薫風爽やかにわたる室堂平



株主の皆様へ

代表取締役社長 見角 要

皆さまには、日頃より、当社事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに、第62期報告書をお届けするにあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

令和7年度は、世界的な地政学リスクや国際情勢の不安定化に加え、円安基調の継続による物価およびエネルギー価格の高止まりなど、先行きに不確実性を伴う経営環境のもとで推移しました。観光業界においては、訪日外国人旅行客の客数や旅行消費額がともに過去最高となる一方、宿泊料金の上昇やオーバーツーリズムなどの課題も顕在化しております。

そうした中、当期の立山黒部アルペンルートは昨年度同様、4月15日に立山駅～信濃大町駅間の全線において営業を再開し、11月30日まで営業いたしました。

営業の推移を概観いたしますと、立山トンネル電気バスの運行開始をはじめとする新たな話題性や、四季折々の魅力を訴求した各種イベントの実施、デジタルを活用した情報発信等により、シーズンを通して多くのお客さまにご利用いただき、営業を終えることができました。

この結果、当期の入り込み人員は合計845千人（前期比103%、21千人増）となり、また、入り込み方面別では、富山入り込みが426千人（前期比107%）、大町入り込みが419千人（前期比98%）となりました。

旅客の内訳では、国内旅客においては、メインビジュアルの「みくりが池越しの立山連峰」を用いたプロモーション展開が浸透し、とくに夏休み期間中は若年層からの支持が高まるなど、新たな客層の獲得にもつながりました。また、「WEBきっぷ」の販売強化も功を奏し、国内旅客全体の入り込み人員は633千人（前期比106%、33千人増）となりました。

一方、海外旅客においては円安基調が継続する一方で、SNSにおいて7月に日本で大災害が起こるとの流言が広まったことや、国内の貸切バス料金や宿泊費の高騰などの影響により、海外旅客の入込数は前年を下回り、入り込み人員は212千人（前期比95%、12千人減）となりました。

3頁の「決算概要」に記載のとおり、3期連続で黒字を計上することができました。当社は新たに策定した中期経営計画（2026～2030年度）に基づき、事業設備の老朽化に対応する更新投資をはじめ、設備・営業・人材への計画的な投資を通じて、収益基盤の確立と持続可能な経営を実現していくための取り組みに着手しております。

株主の皆様には誠に申し訳ございませんが、配当金につきましては、無配とさせていただきます。中期経営計画の着実な進捗を確認しながら、将来的な配当のあり方については慎重に検討してまいりますので、何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

2020年12月に、コロナ禍で急激に低下した収益力の回復と、次代の投資に向けた資本蓄積を基本方針の柱に掲げ策定した中期経営計画（2021～2025年度）は、令和7年度が最終年となりました。種々

の事業構造改革を実行し、財務基盤の再構築を着実に進めた結果、業績は回復基調にあります。当社は、コロナ禍からの回復局面を経て、確保してきた収益力を一過性のものにとどめることなく、将来にわたる持続的な成長へとつなげるため、「人と立山黒部の大自然をつなぎ、さらに豊かな未来へ」をビジョンとする新中期経営計画（2026～2030年度）を策定いたしました。

新中期経営計画では、基本方針として「成長と投資」を掲げ、安定的に収益を確保できる事業基盤の確立を最重要課題として位置づけております。

当社は、世界に類を見ない山岳観光ルートを将来にわたり安全かつ安定的に維持・発展させていくという公益性の高い使命を担っております。その責務を果たすためにも、国内のお客様を大切にしながら、今後さらに増加が見込まれる訪日外国人旅行者の皆さまにも安心してお越しいただくことで、安定的な収益を確保し、その収益を、設備・営業・人材といった重点分野へ計画的に投資を進め、中長期的に持続可能な経営体制の構築を図ってまいります。

これら3つの重点投資の具体的な取り組みは、以下のとおりであります。

【設備への投資】

持続可能な事業運営に向け、輸送の安全・信頼性を将来にわたり確保するため、旅客施設を中心とした計画的な更新投資を着実に推進してまいります。老朽化が進行する設備・施設の更新・改良を進めるとともに、環境負荷の低減と安定運行を両立した設備整備を継続いたします。また、室堂ターミナル等の旅客施設についても、利用環境の向上と安全性確保の観点から段階的な改修を進めてまいります。

【営業への投資】

旅客誘致と需要の平準化、サービス向上に向け、「WE B きっぷ」の利便性向上と事前予約の促進により混雑緩和を図るとともに、大都市圏からの誘客や通り抜け需要の拡大、夏秋期の誘客強化に取り組んでまいります。また、富山県・近隣県・関係市町村・関係機関のご協力をいただきながら、旅行会社や運輸機関とのネットワーク、デジタルマーケティングを活用した情報発信により国内外からの誘客強化を図るとともに、多言語対応や案内体制の改善、飲食・物販の充実を通じて、立山黒部アルペンルート全体の体験価値の向上と再訪意欲の醸成につなげてまいります。

【人材への投資】

人材を最重要経営資源と位置づけ、人材の確保・育成および労働環境の整備を推進してまいります。運転手や技術・IT人材を中心とした採用の強化、処遇改善や人事評価制度の充実、若手社員への支援体制強化などに取り組めます。また、DXの推進による業務効率化と情報共有の高度化を進めるとともに、働きがいのある職場づくりと多様な人材が長期的に活躍できる環境整備を図ってまいります。

山岳観光地で運輸事業を営む当社では、安全・安心の確保を最重要の責務と位置づけ、全職場における継続的な安全管理と教育の徹底、法令遵守およびヒューマンエラー防止に取り組んでまいります。また、乗り物施設の安全対策や火山災害リスクへの対応については、関係機関と連携し、調査・対策の検討や災害対応体制、避難計画の整備を進めてまいります。

あわせて、自然環境の保全についても、ごみ処理対策の徹底や美化清掃活動など、立山黒部の大自然を守り伝えるための取り組みを継続し、環境負荷の軽減に配慮しながら事業運営を行ってまいります。

本年、立山黒部アルペンルートは全線開業55周年の節目を迎え、8月31日にはホテル立山宿泊事業が終了することから、様々な記念イベントを企画し、これまで以上に立山黒部の魅力を発信し、旅客誘致に努めてまいります。

次世代に向けて、幾多の先人が築き上げてきた「立山黒部」ブランドを持続可能な観光地へとさらに進化させるため、選ばれる観光地であり続けるべく、高品質な観光コンテンツの造成、持続可能な企業であるための事業収益力の確保、安全・安心な運行体制の構築、そして大自然立山の自然環境保全に、役職員一同全力を傾注してまいります。

今後とも、変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

決算概要 (記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。)

【単体】

損益概要

(単位:百万円)

	令和 6年度	令和 7年度	前期差
営業収益	5,270	5,558	288
営業費	3,595	3,804	208
営業利益	1,674	1,754	79
経常利益	1,677	1,739	62
当期純利益	1,583	2,163	579

資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和 6年度	令和 7年度	前期差
資産の部	10,432	12,307	1,874
流動資産	4,419	5,390	971
固定資産	6,013	6,916	903
負債の部	6,991	6,642	△348
流動負債	1,382	2,102	719
固定負債	5,608	4,540	△1,068
純資産の部	3,440	5,664	2,223

今期の営業収益は55億58百万円（前期比105%）となりました。一方、営業費につきましては、エネルギー価格高騰などの影響もありましたが、経営全般にわたる業務の効率化、要員体制の見直しなど、スリムな運営体制の構築に努めた結果、営業費合計は38億4百万円（前期比106%）となり、営業利益は17億54百万円となりました。

これに、営業外収益86百万円、営業外費用1億1百万円を加減した当期の経常利益は17億39百万円となりました。

さらに、法人税等ならびに税効果会計による法人税等調整額を加減した結果、21億63百万円の当期純利益を計上することとなりました。

【連結】

損益概要

(単位:百万円)

	令和 6年度	令和 7年度	前期差
営業収益	7,391	7,911	520
営業費	5,255	5,552	297
営業利益	2,136	2,358	222
経常利益	2,140	2,345	205
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,976	2,470	494

資産・負債概要

(単位:百万円)

	令和 6年度	令和 7年度	前期差
資産の部	12,159	14,667	2,507
流動資産	5,317	6,669	1,352
固定資産	6,842	7,997	1,155
負債の部	7,738	7,459	△279
流動負債	1,555	2,388	833
固定負債	6,183	5,071	△1,112
純資産の部	4,420	7,207	2,787

連結子会社の損益概要

(単位:百万円)

	立山貫光ターミナル㈱	立山黒部サービス㈱
営業収益	2,475	110
営業費	1,918	89
営業利益	557	21
経常利益	577	21
当期純利益	391	15

営業概況

■入り込み人員

(単位:千人)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
富山入り込み	352	397	426
大町入り込み	359	427	419
入り込み人員合計	711	824	845
内、当社線利用人員	534	659	693

会社概要 (令和8年3月末現在)

- 所在地 〒930-8558 富山県富山市桜町一丁目1番36号
- 電話 (076) 441-3331
- 設立日 昭和39年12月25日
- 事業目的 自動車運送事業、鉄道・軌道及び索道事業、ホテル・旅館事業、売店・食堂その他飲食物販売業、旅行業法に基づく旅行業
- 資本金 1億円
- 発行済株式総数 8,973,416株 (自己株式318,252株を除く)
- 株主数 1,394名
- 役員 (令和8年6月30日現在)

代表取締役社長	見角 要
常務取締役	田草川健二 (経営管理本部長・プロジェクト推進室担当)
常務取締役	杉林 義宏 (経営管理本部副本部長・技術環境部長)
常務取締役	内山 高宏 (経営管理本部副本部長・総務部長・ホテル事業委託部担当)
取締役	新田 八朗
取締役	金井 豊
取締役	麦野 英順
取締役	奥戸 義昌
取締役	中田 邦彦
取締役	藤井 裕久
取締役	牛越 徹
取締役	田丸 哲
取締役	清水 智則 (経営企画部長・経理部長)
取締役	桔梗 克彦 (営業推進部長・運輸事業部担当)
監査役	出来田 肇
監査役	舟橋 貴之
監査役	新庄 一洋

株主関連

- 事業年度 4月1日～翌年3月31日
- 定時株主総会 6月
- 基準日
 - 株主優待券 2月末日
 - 定時株主総会の議決権 3月31日
 - 期末配当金 3月31日
- 公告掲載新聞 北日本新聞
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
株式会社アイ・アールジャパン
- 同事務取扱場所
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
株式会社アイ・アールジャパン
- お問合せ・送付先
〒100-6026
東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
株式会社アイ・アールジャパン 証券代行業務部
〔フリーダイヤル〕 0120-975-960
〔受付時間〕 午前9時～午後5時（土・日・祝日を除く）

単元未満株式買取・買増制度のご案内

当社では、単元未満株式（100株未満）をご所有の株主の皆様のご便宜を図るため、単元未満株式の買取および買増制度を行っております。

<単元未満株式の買取り>

株様がお持ちになっている単元未満株式を、当社が買い取らせていただきます。

<単元未満株式の買増し>

株様がお持ちになっている単元未満株式と合わせて1単元（100株）となる株式を当社が株主に売却いたします。

お手続きの詳細につきましては、上記**株主名簿管理人**までお問い合わせください。

株主優待制度

ご所有株式数	優待乗車券・乗車証			ホテル宿泊 ご優待割引券
	種 類	通用区間	発行枚数	
100株～150株未満	優待乗車券(片 道)	立 山～室 堂	1 枚	2 枚
150株～300株未満	優待乗車券(片 道)	立 山～室 堂	2 枚	2 枚
300株～400株未満	優待乗車券(片 道)	立 山～黒部湖	2 枚	2 枚
400株～600株未満	優待乗車券(片 道)	立 山～室 堂 立 山～黒部湖	2 枚 2 枚	2 枚
600株～800株未満	優待乗車券(片 道)	立 山～室 堂 立 山～黒部湖	2 枚 4 枚	2 枚
800株～1,000株未満	優待乗車券(片 道)	立 山～黒部湖	6 枚	2 枚
1,000株～2,000株未満	優待乗車券(片 道)	立 山～黒部湖	8 枚	4 枚
2,000株～3,000株未満	優待乗車券(片 道)	立 山～黒部湖	16枚	4 枚
3,000株以上	優待乗車券(片 道) 優待乗車証(記名式)	立 山～黒部湖	24枚 1 枚	6 枚

- 優待有効期間：各年度 営業期間中
- 各券のご利用方法につきましては、各券面記載事項をご覧ください。

【ホテル宿泊ご優待割引券に関するご案内】

現在、ホテル立山・弥陀ヶ原ホテルの2館でご利用いただいておりますが、ホテル立山が令和8年8月31日をもちまして営業を終了いたします。

これに伴い、令和8年9月1日以降はご利用いただける施設が弥陀ヶ原ホテルのみとなります。

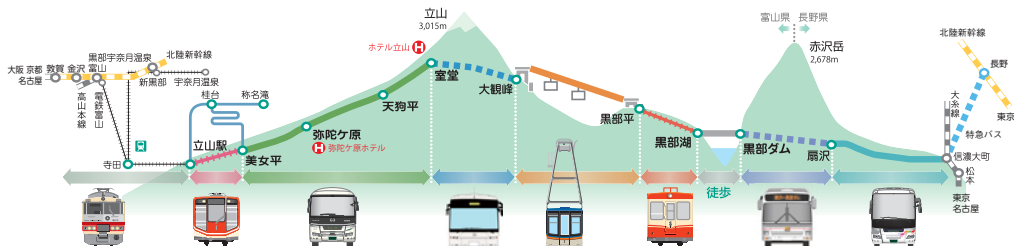
株主の皆様におかれましては何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

立山黒部アルペンルートのご案内

● 立山黒部アルペンルート公式サイト
<https://www.alpen-route.com>



富山県と長野県を結び、山岳観光ルート。
 気軽に標高3,000メートル級の立山連峰の絶景が楽しめます。
 事前に乗車予約ができる安心・便利な「WEBきっぷ」のご利用がおすすめです。



乗物	電車 電鉄立山～立山	立山 ケーブルカー	立山高原 バス	立山トンネル 電気バス	立山 ロープウェイ	黒部 ケーブルカー	(徒歩)	関電トンネル 電気バス	路線バス (原沢～信濃大町)
キロ (時間)	31.3km (65分)	1.3km (7分)	23km (50分)	3.7km (10分)	1.7km (7分)	0.8km (5分)	0.6km	6.1km (16分)	18km (40分)
運賃 (おとな)	片道	1,420円	1,090円	3,000円	2,200円	1,700円		1,800円	2,000円
	往復	2,840円	1,980円	5,400円	3,960円	3,060円		3,200円	4,000円

アルペンルートのホテル



ホテル立山
 〒930-1414 富山県中新川郡立山町芦崎寺室堂
 ☎(076)463-3345 FAX(076)463-3348
<https://h-tateyama.alpen-route.co.jp/>

弥陀ヶ原ホテル
 〒930-1412 富山県中新川郡立山町芦崎寺弥陀ヶ原
 ☎(076)442-2222 FAX(076)442-2242
<https://midagahara.alpen-route.co.jp/>



主な事業所

本社
 〒930-8558 富山県富山市校町1-1-36
 ☎(076)441-3331(代表) FAX(076)433-1185

運輸事業部
 〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦崎寺千寿ヶ原
 ☎(076)481-1173 FAX(076)481-1185

東日本営業所
 〒102-0081 東京都千代田区四番町4-9 東越伯鷹ビル3階
 ☎(03)3262-7028 FAX(03)3265-5285

大町事業所
 〒398-0002 長野県大町市大町3226-2
 ☎(0261)22-0198 FAX(0261)23-2967

西日本営業所
 〒550-0004 大阪府大阪市西区鞠町1-9-15 近畿富山会館2階
 ☎(06)6445-0359 FAX(06)6445-0398